

# J-ROCK が炸裂！アメリカ大型フェス SXSW2026「TOKYO CALLING × INSPIRED BY TOKYO」レポート



音楽業界の主要 5 団体が垣根を越えて設立し、2025 年 5 月に「MUSIC AWARDS JAPAN」を開催した一般社団法人カルチャー アンド エンタテインメント産業振興(CEIPA)と TOYOTA GROUP が、本質的な日本音楽産業のグローバル化と持続的な成長支援・推進する共創プロジェクトとして立ち上げた「MUSIC WAY PROJECT」。

その一環として、世界最大級のライブハウスサーキットフェスである米 SXSW にて、日本のアーティストによるオフィシャルショーケース「TOKYO CALLING × INSPIRED BY TOKYO showcase supported by MUSIC WAY PROJECT」が開催されました。

All Photo credit: (c) 森リョータ

米国時間 3 月 13 日、世界最大級の複合型コンベンション&フェスティバル「SXSW(サウス・バイ・サウス・ウェスト)」にて、日本のアーティストによるオフィシャルショーケース「TOKYO CALLING × INSPIRED BY TOKYO showcase supported by MUSIC WAY PROJECT」が開催された。本イベントは、2023 年の「TOKYO CALLING」から始まり、2024 年には「TOKYO CALLING」と「INSPIRED BY TOKYO」の連日開催、そして昨年には両イベントが共同で同日開催と規模を広げ、着実にファンを増やしてきた。和風のイラストが印象的なイベントのアートワークも、「SXSW」に訪れる邦楽ファンの中ではお馴染みになりつつある。4 度目となる今年はロックジャンルを中心に、バラエティに富んだ 6 組のアーティストが集結。本イベントの様態をレポートする。



今年で40年目という節目を迎える「SXSW」を祝福するかのように、カラっとした晴天が続くオースティン。定刻の19時、Downton Austin Backyardの野外会場「Global Stage」にシンガーREJAYが登場した。REJAYは、昼に行われた日本貿易振興機構(JETRO)主催の日本カルチャー体験プログラム「SXJP: Infusion Japan」にも出演。そこではアコースティックギターを弾きながら、語りかけるように歌う彼女の歌声に、フロアからは思わず“Such a beautiful voice…”とため息交じりの反応が溢れた。夜のステージでは、心地よい夜風に髪をなびかせエレキギターで披露した「Middle of the night」で、センチメンタルなサウンドが会場を包み込んだ。



ステージセットはフルバンド仕様へと転換。打首獄門同好会が一曲目の「WAZA」から轟音を鳴らすと、フロアの熱気が炸裂した。スクリーンに映し出されたコミカルなミュージックビデオと歌詞の英訳で笑いを誘い、“もっと英語が話せたらいいのに”という大澤敦史(Vo./Gt.)の想いが正直に綴られた全英詞の最新曲「I wish I could speak English」では、ユーモアたっぷりのパフォーマンスで国境を越えた共感と呼び、“生活密着型ラウドロック”ならではの爆音と爆笑を届けた。



続くのは、今日がアメリカで初のライブとなる板歯目(バンシモク)。「ウィーアー、板歯目～」と可愛げのある声で自己紹介したかと思えば、次の瞬間には目つきを鋭く変えてギターをかき鳴らす千又詞音(Vo./Gt.)。そのギャップに驚いた人も多かったはずだ。「オリジナルスクープ」では早くもモッシュピットが生まれ、「地獄と地獄」ではタオルを回して応戦するファンも。ラストの「親切」まで、パンキッシュなライブを見せつけた。



オルタナティブロックバンド Enfants が、洗練されたサウンドスケープで会場の空気を一変させる。“ここに戻って来られて嬉しいです。音楽って、世界共通言語だよな！”と松本大(Vo./Gt.)が話すと歓声が上がります。去年の「SXSW」に出演した際にオースティンでレコーディングしたという「天国に生まれた僕ら」を披露。バンドが持つ陰と陽のコントラストが交錯し、その世界観を体現してみせた。



ビッグサイズの緑色のスーツが一際映える FINLANDS の塩入冬湖 (Vo./Gt.) は、前列のオーディエンス一人ひとりと目を合わせながら「ラヴソング」を力強く歌った。その唯一無二の歌声は鋭さと切なさを併せ持ち、胸にキュンと響くパワーで聴く人全てを魅了していく。“素敵な週末が訪れますように、また会いましょう！”と語りかけると「Weekend」でエモーショナルな余韻を会場に残した。



トリを務めたのは、アイスクリームネバーグラウンド。“暴レンターテイメントバンド”の名に恥じることなく、初っ端の「リビングステッパーズ」でらんご(Vo.)が煽ると、フロアはツーステップの嵐に。アメリカ初ライブとは思えないほどの熱量で、サークルモッシュやヘッドバンギングが次々と巻き起こった。SNS フォロワーの半数がアメリカのオーディエンスだというこのバンドの、脅威的な支持率にも頷けるステージだった。

今年の「TOKYO CALLING × INSPIRED BY TOKYO」は、J-ROCKの多面性を存分に感じさせる一夜だった。単なる演奏の場にとどまらず、歌詞やパフォーマンスを通して、日本人のデイリーライフやカルチャーを音にのせてプレゼンテーションするような、まさに“ショーケース”と呼ぶにふさわしい場であった。会場では日本からの訪問者や現地の業界関係者が交流し、アーティスト同士がつながる瞬間も見受けられた。また、ライブパフォーマンスがオーガナイザーの目に留まれば、会期中の他のライブへの出演機会にも結びつくこともある。SXSWは、行くだけでは終わらない。現地こそ真価が問われる、ライブ感あふれる舞台なのだ。

Text by Megumi Hamura

Set List

Mar. 13th (Fri.) @Downright Austin

REJAY

1.Meant to Be

2.Remedy

3.Shaky

4.HAZY (Prod. A.G.O)

- 5.Love you still
- 6.Too Late
- 7.Stand up
- 8.Middle of the Night

打首獄門同好会 GOKUMON (Uchikubi Gokumon Doukoukai)

- 1.WAZA
- 2.筋肉マイフレンド Kinniku my friend
- 3.はたらきたくない Hatarakitaku nai
- 4.布団の中から出たくない Futon no naka kara detakunai
- 5.I wish I could speak English
- 6.島国のDNA Shimaguni no DNA
- 7.日本の米は世界一 Nihon no kome wa sekai ichi

Banshimoku

- 1.Original Scoop
- 2.Jigoku to Jigoku
- 3.Chicchai Kamakiri
- 4.FREEMAN
- 5.Slump Maker
- 6.Shizumu!
- 7.Orgel
- 8.Shinsetsu

Enfants

- 1.Kid Blue
- 2.HYS
- 3.Punk Head
- 4.デッドエンド Dead End
- 5.天国に生まれた僕ら When We Were In Heaven
- 6.Play
- 7.星の下 Born Under

FINLANDS

- 1.Cut
- 2.HEAT
- 3.Love Song
- 4.Stranger
- 5.Weekend
- 6.Ballad

ISCREAM NEVER GROUND

- 1.リビングステッパーズ Living steppers”
- 2.エンドレスリレー Endless Relay
- 3.JOSHO ビーツゲーム JOSHO BEATS GAME
- 4.H.I.I.T
- 5.2 ステ 3 フン 4 ローイング 2STEP3FUN4LLOWING
- 6.夏フェス参戦ロードウェイ Natsu Fest Sansen Roadway

## 開催概要

タイトル TOKYO CALLING × INSPIRED BY TOKYO showcase  
supported by MUSIC WAY PROJECT

日時 2026年3月13日(金)19:00 START(AUSTIN 現地時間)

会場 Global Stage @ Downright Austin Backyard

### 出演アーティスト

アイスクリームネバーグラウンド  
Enfants  
打首獄門同好会  
板歯目  
FINLANDS  
REJAY

企画制作 FRIENDSHIP.  
LD&K, Inc.  
The Orchard Japan  
Spincoaster, Inc.  
TuneCore Japan KK

## 【CEIPA × TOYOTA GROUP “MUSIC WAY PROJECT” とは】

「CEIPA」 TOYOTA GROUP

**MUSIC WAY**  
**PROJECT**

コロナ禍によるライフスタイルの変化や、ストリーミングビジネスの伸長により、エンタテインメントコンテンツの市場規模は拡大しています。また、日本文化の存在感も国際的に注目されつつあります。これらが世界中の人々を熱狂させ始めている今、日本のコンテンツをもっと世界に発信すべく、日本音楽の未来を切り開いていく若者たちが進む「道」を共創し、本質的な日本音楽のグローバル化・持続的な成長を推進する。それが「MUSIC WAY PROJECT」です。「日本の音楽が世界をドライブする」を合言葉に、若き才能がもっと活躍する為の場を提供してまいります。